

## 議 事 録

会議の名称	平成 26 年度 第 4 回 座間市子ども・子育て会議
会議日時	11 月 6 日（木） 18：00～20：00
会議場所	座間市役所 5F－1 会議室
委員	大下聖治、大友奉、渡邊廸子、大塚和光、中村保夫、山本安雄、田中敦、金子三枝子、小澤ゆり、椎野一子、大木貴子、尾崎幸利、安藤潔、橋本俊幸
事務局	子育て支援課 電話 046－252－7969（直通）
次第	子ども・子育て会議 1 開会 2 議題 (1) 座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）について 3 その他 4 閉会

### 会議経過

#### 【座間市子ども・子育て会議】

1 開会

2 議題

(1) 座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

①座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）第4章について

・事務局より資料説明

#### 【質疑応答】

(委員)

幼稚園の一時預かりは幼稚園に通っている子のみののでしょうか。

(事務局)

原則はそういうことです。

(委員)

児童ホームに6年生まで受け入れるのには現状ではスペースが少ないという話があったと思いますが、今後はこれも考慮して人数を増やしていくのですか。

(事務局)

どの程度需要があるのかを事務局でも把握していませんが、放課後子ども教室なども含めて総合的に考えていきたいと思っています。

(委員)

子ども・子育て支援事業として国が示した中には利用者支援事業もあったと思いますが、これを外した理由は何ですか。

(事務局)

最新の情報は担当課が一番把握しているので、市役所の窓口と庁内の連携で対応していきたいと考えています。

(委員)

利用者支援事業については現状こうだから座間市としては現状でいく、という形で載せても良かったんじゃないかなと思います。また、窓口以外でも身近なところで情報を提供できるような仕組みを作っていく、ということも念頭に入れて利用者支援事業についてもこの中に入れて頂きたかったと思います。

(事務局)

こちらの計画には現時点で実施するものを載せていますので、利用者支援事業については現時点では実施する予定がないので載せていません。

(委員)

その説明をどこかに載せて頂いた方がわかりやすいので、検討して頂きたいと思います。

(事務局)

この会議で素案を取りまとめた後にパブリックコメントを行う予定になっていますので、その時にやらない事業についての理由を書かせて頂きたいと思います。

(委員)

病児保育事業ですが、先ほど 29 年度に 1 施設を実施の見込みと説明がありましたが、これはもう具体的に決まっているのでしょうか。

(事務局)

決まってはいません。

(委員)

前回の話では、小児科に併設されたものが望ましいという意見があったと思いますが、そのあたりを考えた上ということなのでしょうか。

(事務局)

もちろん併設が魅力的だとは考えています。

(委員)

小児科だけではなく全く民間の別の団体の可能性もあるのですか。

(事務局)

現状では詳細が未定なので、まだ説明できません。

(委員)

例えば、現在は医療現場で働いていないけれど資格がある、という方が民間に組み込まれて応募する、ということも有り得るわけですか。

(事務局)

確認してお返事差し上げます。

(委員)

病児保育については、やはりお母さま方の心配もあるでしょうから、小児科と直結できるような形がいいと思います。

(事務局)

貴重なご意見として今後の計画の参考とさせていただきます。

(委員)

一時保育についてですが、施設の数よりも人数で考えてほしいと思います。

(事務局)

このフォーマットは国が示したもので変えられないのです。

(事務局)

人数で示してしまいますと、実施する側からするとハードルが高くなってしまう可能性があります。でするので、まずは実施を目指し、その中で定員を多く確保して頂けるようお願いしたいと考えています。

(委員)

小規模保育の新設ですが、前回の会議の中では、新設についてはハードルが高いという話があったと思いますが、それでも 28 年度 30 年度に新設するということは、見込みがあるということでしょうか。

(事務局)

積極的に連携を促して小規模保育の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています

(委員)

幼稚園の一時預かりの確保方策のところに、確保量、施設数として全て 9 と記載されていますが、この調査は行っているのでしょうか。

(事務局)

これは私学助成の施設数を書かせていただきました。

## ②座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）第 5 章について

・事務局より資料説明

【質疑応答】

(委員)

就学前の障害児が民間の療育施設に行っている場合に、市から補助が出ているという話を聞いたことがあります、そういう事実はあるのですか。

(事務局)

障がい福祉課に確認して後日お答えします。

(委員)

障害児に関しては、幼稚園でもたくさん受け入れています。それに対して座間市からの補助はないので何とかならないのかと思います。

幼稚園が新制度に移行すると、国の公定価格によって補助額が決まってきますが、移行しない幼稚園の保護者の就園奨励費と不公平にならないように考えて欲しいと思います。

(事務局)

保護者負担については、資料 2 に施設型に移行した幼稚園に払うべき保育料が掲載されていますが、その基準と就園奨励費はイコールになるようになっています。

(委員)

資料 1 の 18 番「子育て応援パスポート」ですが、継承しない理由として「県でも同様の制度がある」とありますが、何年か前にわかっていたのであればその時点で止めて良かったのではないですか。それから、116 番「職業生活と家庭生活の両立のための広報・啓発事業」も「国の施策によるため継承しない」ですが、これまでどういう風に実施されてきたのかということと、今後、国の施策としてどのように行われるのかをお聞きしたい。それから 129 番「多様な働き方」。継承しない理由として「他事業計画がある」ですが、今後どこがどのように継承して進めていくのかを伺いたい。それから 136 番「一般事業主行動計画」。これも継承しないとのことですが、どういう風に取り組んでいかれるのか、お聞かせください。

(事務局)

「子育て応援パスポート」ですが、県の方で全く同じようなことをやっていますので、それにまた同じようなことをするという事は考えていません。もしやりたいという希望があれば県の制度を利用できるということです。116 番の「職業生活と家庭生活の両立のための広報・啓発事業」ですが、これはもうやらないということではなくて、こちらの計画には載せないということです。136 番も同じです。129 番も男女共同参画プランの中に書いてありますので、こちらの計画からは外させていただきました。

(委員)

では、商工観光課と連携してやるということは、こちらの計画ではないということですね。

(事務局)

多様な働き方の実現について、市役所でやれることは限られるのかなと思っています。

(事務局)

4章5章につきましては、ご意見を頂いてまた素案として書かせていただきたいと思います。今後につきましては、パブリックコメントを11月20日から12月19日に実施する予定となっております。これを受けて最終案をまた書かせていただきますが、あと1回子ども子育て会議を行う予定になっておりますので、その時には最終案の方をお示ししたいと思っています。

### 3 その他

- ・事務局より資料4-1、4-2について説明

#### 【質疑応答】

(委員)

先ほど、この会議は利用定員を決める会議ではないというような説明がありましたが、そうするとこの数字は何の法文を基に決まっているのですか。

(事務局)

県知事と協議して座間市長が決めます。特に今回の場合は、はじめての認可ではなくて既に認可されている施設のもので、経過措置があります。いわゆる見做し確認というものですが、それに基づいてやっておりますので、はじめて認可するものとは性格が異なっています。

(委員)

はじめて認可するものはここで決まるということですか。

(事務局)

ここで決めるものではありません。例えば法律が施行されたとしても、決めるのは市長です。決める前にこちらに諮問をするような努力義務が課せられています。

(事務局)

次回の、平成26年度の第5回の最終の会議ですが、平成27年1月29日18時から今日と同じ場所かどうかたちを取りたいと思います。

(委員)

毎回言っていますが、資料をもう少し早めに郵送なりして頂けませんか。

(事務局)

本日お持ち帰り頂いて、ご質問等がございましたら来週の月曜日10日の4時までに事務局の方にお電話いただければ、内容的に反映させるべきことがあれば反映していきたいと思っています。

(委員)

それよりももう一度これに関して29日にやってほしいと思います。

(事務局)

もし次回でよろしいということであれば、このままパブリックコメントの方に移らせて頂いてもよろしいでしょうか。

(委員)

今回はこれが基になったものが出てきて、そこで意見を言えるというのであれば、事前にはいないかな、と思います。

(事務局)

この素案の誤字脱字等を修正してパブリックコメントにかけて、ご意見等で修正するものがありましたら修正したものを最終案として 29 日に出したいと思っております。

(委員)

ここに書かれていることが、パブリックコメントで変更になった場合、前回はこうだったけど、パブコメを受けてこう変更になりました、ということがわかるような形で出してください。

(委員)

パブコメを全て取り入れる必要もないと思いますが、そういう判断をどこで行うのでしょうか。

(事務局)

それはこちらの方で判断することになりますが、最終的な案は子ども・子育て会議でお示しします。

(委員)

来年の 1 月の 29 日の会議については、やはり資料は早めに頂きたいと思います。

(委員)

資料にもう少し具体性を示してもらいたいと思います。座間市はこういう方向性を持っているから子どもがいても住みやすいよ、というような具体的な方向性を示してもらいたいと思います。

(委員)

小規模保育の基準について教えてください。

(事務局)

小規模保育に関しては A 型、B 型、C 型と 3 種類あり、現段階では A 型の小規模保育の方向性を考えています。A 型というのは認可保育園に近い基準となっています。

(委員)

B と C についても教えてください。

(事務局)

具体的な基準については、文面にして委員のメンバーに後日郵送でお配りさせていただきます。

(委員)

小規模保育で2歳まで家庭的保育を受けてきた子どもは、3歳からどこへ行くのでしょうか。

(事務局)

今現在、小規模保育を実施したいという話は上がってきていませんが、上がってきた場合に関しては、連携施設の実施方策を踏まえて認可を進めていきたいと考えております。

(委員)

3歳から、幼稚園が保護者の就労時間に合わせて受け入れるというのであれば、小規模が増えてもいいのかなと思いますが、幼稚園のやり方を急に切り替えるのは無理かなとも思います。夏休み等の一時的な利用もありますので、こういった関連性を考えながら小規模等を作っていく必要があると思います。

(委員)

保育園が、3歳から幼稚園でやってくれと言うのであれば、むしろ幼稚園はありがたい。以前は0,1,2歳は保育園で3,4,5歳は幼稚園でという案もありました。

(委員)

保育時間は一般的に朝7時から夜7時は普通時間で、朝6時半から夜8時までの延長もあります。小規模の家庭的な保育に合わせながら働いてきたのに、3歳からの幼稚園ではそれは無理とか、7時までは無理とか、そういう関連性を考えながら小規模を実施していかないといけないと思います。保育園は0から入って上まで行ってしまいますし、定員を厳しく言われるので、3歳から受けるのは無理です。さっき公立の方で増やしていくと言われましたから、公立が増やしていくのでしょうか。

(事務局)

もちろん公立も選択肢ですが、私立にもご協力をお願いします。仮に公立で連携施設をやるとしたら、3歳児部分の定員を空けておくという形になります。

(委員)

法人の場合は定員を空けておくのは難しいです。

(委員)

幼稚園でもやる気になれば連携施設にはなれるのですか。

(事務局)

幼稚園の連携施設も可能です。

(委員)

では、設置基準を満たせば、幼稚園そのものが小規模保育施設をやることも可能ですか。

(事務局)

基準を満たしていれば可能です。

(委員)

職員が結婚して辞めてしまうのを防ぐために、自前で小規模保育の場所があってもいいのかなと考える園長たちもいますのでお聞きしました。

(委員)

病後児保育ですが、保育所というのはインフルエンザでも台風でも雪でも休めませんよね。であれば、なぜ普通に病後児の子どもをもっと気楽に受け入れられないのかなと思うのですが。

(委員)

病後児はほとんど民間の施設は預かっています。ただ、病後児と言っても本当に治りかけの時だけ薬とお子さんを預かる、ということになっています。

(委員)

幼稚園は、園によって違いますけれど、そのへんは曖昧で、本人が元気ならいいよ、とかそういうレベルです。ですから、ちょっとした誰でもかかるような病気だったら、病後児保育をやってるとかやってないとか騒ぐ必要もないのではないかと思います。

(委員)

でも、病児の場合は別です。それで困ってらっしゃる親御さんもたくさんいらっしゃいます。大和とかでも人数に限りがあります。だから座間市内に作って欲しいのです。

(事務局)

1月29日の会議室は別の場所になってしまうと思うので、通知で会議場所を提示します。

#### 4 閉会